

食品加工

契約栽培による九州産野菜の 安定供給先として期待 ～(株)ピクルスコーポレーション西日本 (佐賀県みやき町)



1 組織の概要

組織名称	株式会社ピクルスコーポレーション西日本
業種(事業内容)	食品製造業(浅漬、キムチ、惣菜の製造・販売、漬物の仕入れ・販売)
代表者名	代表取締役社長 福竹 隆成
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁243-1
連絡先	TEL:0942-50-6155 FAX:0942-50-6145
従業員数	182名(役員6名 社員26名 パート約150名)

2 取組の推移

2017年	株式会社ピクルスコーポレーション西日本設立
2018年	佐賀工場新設

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1) 基礎情報

主な野菜品目	はくさい	きゅうり	だいこん
主な用途	浅漬、キムチ、惣菜		
年間使用量	約2,700トン		
国産使用比率	100%		
主な産地	長野、大分、宮崎	佐賀、宮崎、熊本	熊本、鹿児島
産地との契約	仕入先から産地への契約あり	契約あり	仕入先から産地への契約あり
主な原料調達先	仲買		
原料の受入形態	ダンボール	ダンボール、コンテナ	ダンボール、コンテナ
製品出荷先	スーパー		

(2) 取組の特徴

国産野菜にこだわったキムチ、浅漬及び惣菜を製造し、九州全域のスーパー等に出荷している。

- ① 国産野菜を使用して製造することが会社の方針であり、九州産の野菜を多く使用している。
- ② 契約栽培を推進しており、産地とともに安定供給に向けた課題に取り組んでいる。
- ③ 旬の野菜をキーワードに商品開発に取組み、取引先の地場の要望にも対応している。
- ④ ピクルスコーポレーショングループ全体でSDGsの一次産業の問題解決に取り組んでいる。

(3) 国産原材料の使用理由

安心・安全な国産野菜を求める消費者ニーズに応えるため。また、漬物を食べるライフスタイルを提案し、伝統的な食文化を継承していきたいという会社の方針があるため。

(4) 生産者が加工用野菜の契約に取り組むメリット

- ① 契約栽培による安定的な収入設計ができる。
- ② 選別及び個包装など出荷作業の削減。
- ③ 規格は青果用に比べて厳しい制約は少なく、規格外品も有効活用でき収益アップにつながる。

4 契約の課題とその対応

- ① 加工用の野菜は市場に比べて単価が安い傾向のため、生産者になかなか第一歩を踏み込んでいただけない。契約した分は市場単価が暴落した場合も契約単価で全量仕入れている。
- ② 原料野菜への異物混入、荷姿(鉄コン不可)及び納品車両等の契約条件が課題である。
- ③ 白菜は、夏場長野から調達しており流通コストがかかっている。夏場九州で調達できれば理想である。
このことから、契約取引している農場では、旬の時期とはずらした収穫や市場が落ち込む時期の収穫などテスト栽培に取り組んでいる。
- ⑤ 野菜の安定確保のために契約する産地の分散及び契約できる品目の制限が必要。

5 取組の成果

- ① 以前は広島工場から九州に出荷していたが、佐賀県に工場を設置したことで、賞味期限が短い惣菜を九州全域に安定供給できるようになった。
- ② 産地の情報交換会などに積極的に参加することで、生産者とマッチングして、契約栽培の拡大につながっている。
- ③ 産地と信頼関係を構築し契約栽培を進めることにより、生産者の所得向上及び地域農業の活性化に貢献している。

6 今後の展開

- ① 契約栽培は現在工場が所在するみやき町のみだが、今後は佐賀県全域に契約を拡大していきたい。
目標としては、現状の5.5%から2年以内に10%(300トン以上)を目指している。
- ② 直接契約の他、仲買人と産地との契約栽培を含め、90%を通年契約して行きたい。
- ③ 大根など契約する品目を拡大したい(現状は白菜、きゅうりのみ)。
- ④ 通年九州産の野菜で賄っていきたい。